

コロナ禍の食肉をめぐる状況（2022年2月報告）

【要約】

2022年2月14日

公益財団法人日本食肉流通センター

当センターの部分肉取引情報やその他関連のデータを用いて、コロナ禍の2年間を振り返り、食肉業界への影響の変化を報告する。

（部分肉取引（首都圏））

- ・和牛「4」の価格は、2020年前半にコロナの影響により低下し、後半から回復。ももセットは強い需要を受けて以前の価格を超えて上昇。2021年には、ロイン価格が以前の水準に戻るが、ヒレは戻りきれず。
- ・交雑牛「3」と乳牛「2」の価格は、ロインとヒレ価格は低下して推移するが、2021年12月にはホテル、外食の需要回復もあり上昇。
- ・和牛「4」の取引量は、2020年4月から価格とは逆にロインとヒレが急激に増加、この動きは交雑牛等にはない。農林水産省の対策などが影響していると思慮。
- ・国産牛肉の取引量は、コロナの影響を受けてセットからパーツ取引へ。国産豚肉は、このような動きは見られず、2021年にはセット取引が増加傾向。

（食肉需要／販売先）

- ・牛肉の推定出回り量は、2020年、2021年ともに前年を下回り、コロナの影響から回復がみられるという状況にはない。豚肉は逆に前年を上回り、家庭消費を中心に全体需要が増加。
- ・外食の「焼き肉」と「居酒屋」の売上げは、コロナの影響で大きく減少。緊急事態宣言が解除された2021年10月から両者とも増加するが、「居酒屋」は以前の50%水準。

- ・「洋風ファストフード」、量販店等での総菜、生協の宅配の売上げは、コロナの影響により増加して推移。

(牛肉輸入)

- ・牛肉輸入量は、2020年、2021年ともに前年を下回り、特にロインの輸入量は大きく減少。「ロイン系は荷動きが鈍い」という業界からの報告は輸入物にも共通。

(牛肉輸出)

- ・順調だった牛肉輸出は、2020年に入ってから一時減少するが増加に転じ、年計では対前年比12%の増加、2021年にはさらに大きく対前年比63%の増加。

- ・ロインの輸出数量は、2020年には前年を下回るが、2021年は大きく増加。国内の和牛ロイン系生産量の2割程度が輸出に向けられていると推測され、その需給改善に寄与。

- ・ロインの上位輸出先国をみると、米国向け単価(冷蔵)が最も高く、アジア向け単価はその8割水準以下。

(以上)